

第10回

投資信託の仕組みと特徴 分散投資の意義

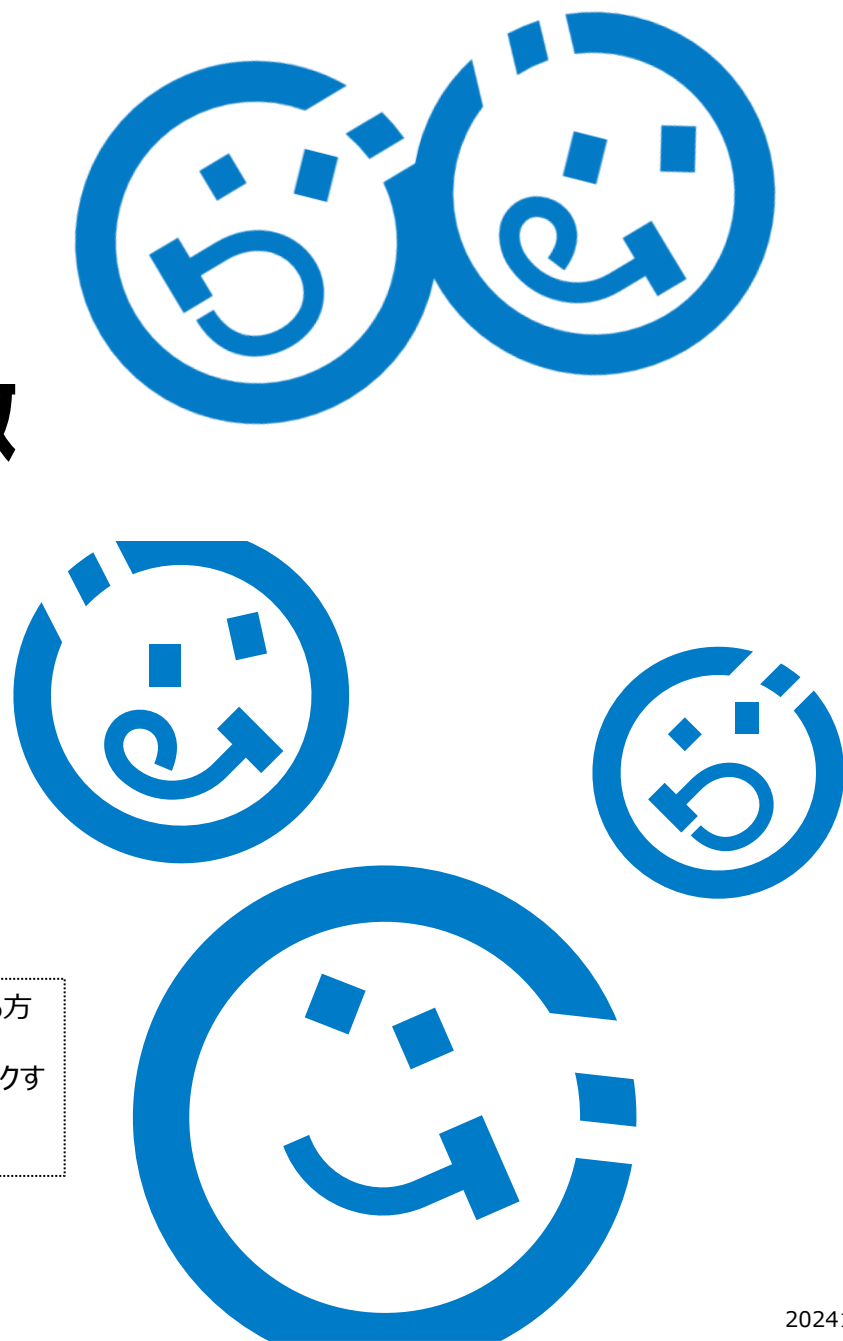
本講義資料は、金融リテラシーに関する講義を行うことを検討している方や実際に講義をされている方などを対象に提供しています。

ご使用にあたっては、下記リンク先の「講義資料の使用に関する留意事項」をご確認ください（クリックすると、J-FLEC HP（金融経済教育推進会議 大学連携講座ページ）に遷移します）。

<https://www.j-flec.go.jp/conference/collaborative-courses/#tg3>

J-FLEC

金融経済教育推進機構



- ① 投資信託とは
- ② 分散投資によるリスク低減効果
- ③ 投資信託の仕組み
- ④ 投資信託の種類
- ⑤ 投資信託を購入する際の留意点
- ⑥ まとめ



1

投資信託とは

- 投資信託とは、例えるなら「器」です。
「器」の中身が株式や債券の「パッケージ商品」と言えます。
- 「器」の中身は「ファンドマネージャー」という運用の専門家が決めてくれます。
言わば、お任せ型商品です。
- 初めて資産運用をする方などには取組みやすい商品と言えます。
(ただし、費用がかかります)

投資信託 (器のようなもの)

国内株式

国内債券

外国株式

外国債券

魅力

少額で
投資可能

運用は
専門家が
担当

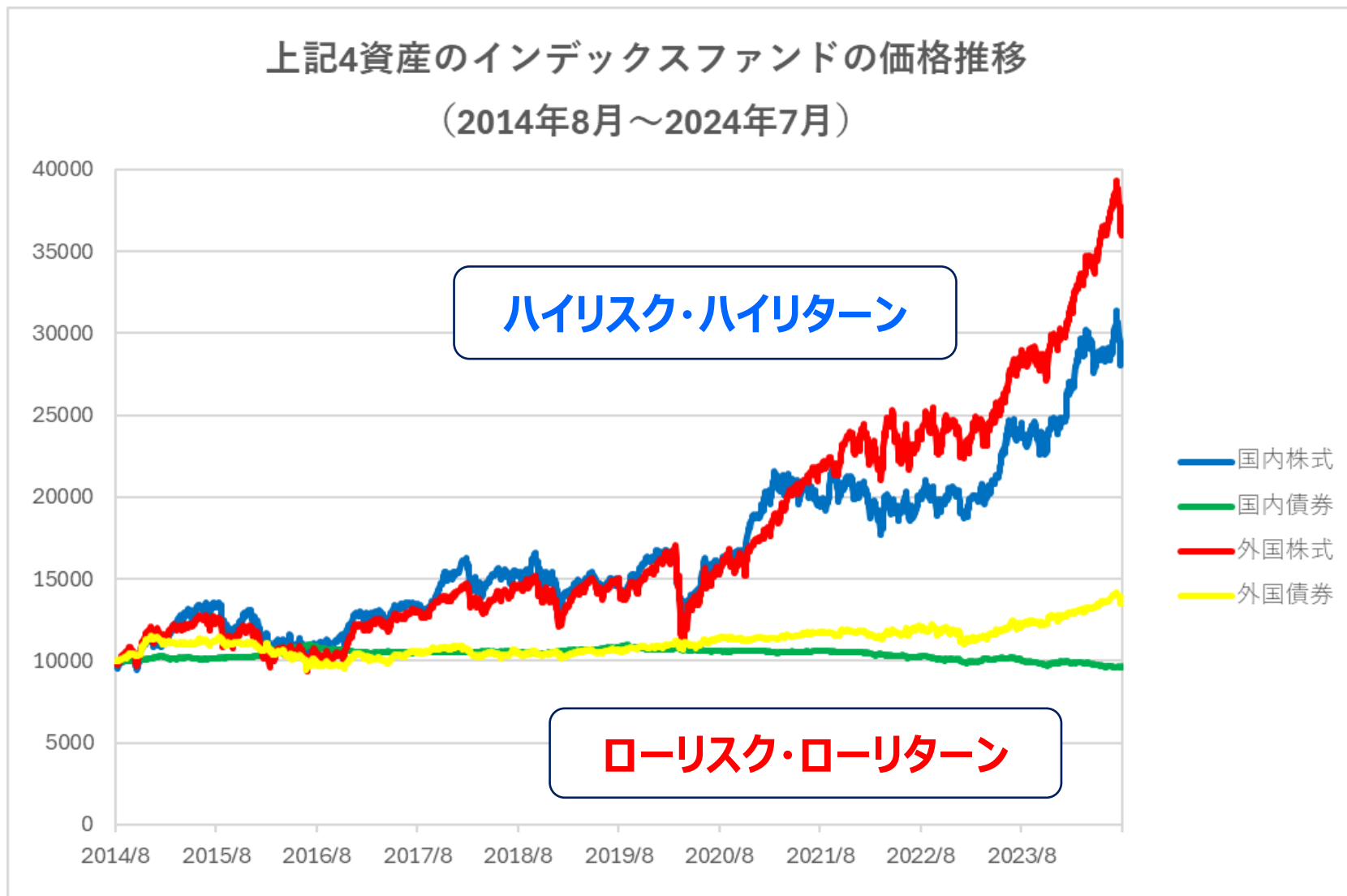
分散投資で
リスクを
低減

リスク

価格変動リスク

信用リスク

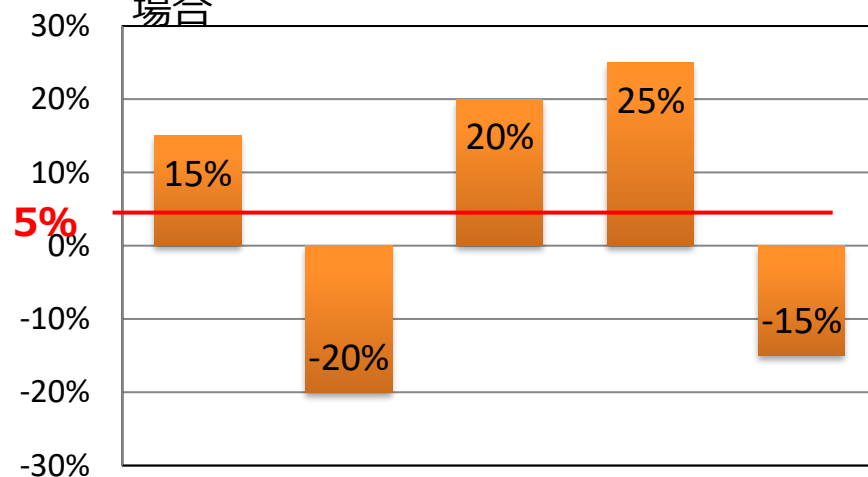
組み入れられている株式や債券の発行体が、将来存続している場合も破たんする場合もある。



グラフは、国内株式(野村インデックスファンド・日経225) 国内債券(野村インデックスファンド・国内債券) 外国株式(野村インデックスファンド・外国株式) 外国債券(野村インデックスファンド・外国債券)の基準価額の推移を元にJ-FLECで作成。

リスク（リターンの不確実性）を過去の平均リターンから計算する

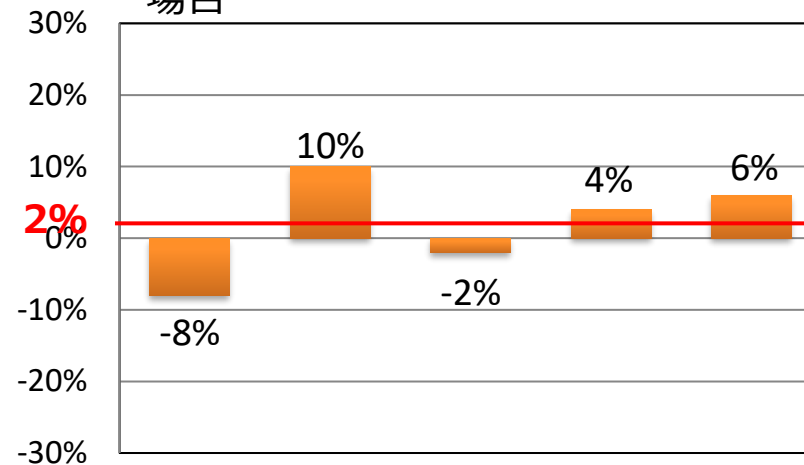
【例1】1年あたりのリターンがそれぞれ
(リターン) 15%、-20%、20%、25%、-15%だった
場合



リターンの平均…各年のリターンを足して5で割る
 $\Rightarrow \{15 + (-20) + 20 + 25 + (-15)\} \div 5 = 5\%$

リスク…各年のリターンが、平均のリターンからどの程度
乖離しているかを数値化して計算
 $\Rightarrow \{10^2 + (-25)^2 + 15^2 + 20^2 + (-20)^2\} \div 5 = 350$
 $\sqrt{350} \doteq 18.7$

【例2】1年あたりのリターンがそれぞれ
(リターン) -8%、10%、-2%、4%、6%、だった
場合



リターンの平均…各年のリターンを足して5で割る
 $\Rightarrow \{(-8) + 10 + (-2) + 4 + 6\} \div 5 = 2\%$

リスク…各年のリターンが、平均のリターンからどの
程度ぶれているかを数値化して計算
 $\Rightarrow \{(-10)^2 + 8^2 + (-4)^2 + 2^2 + 4^2\} \div 5 = 40$
 $\sqrt{40} \doteq 6.3$

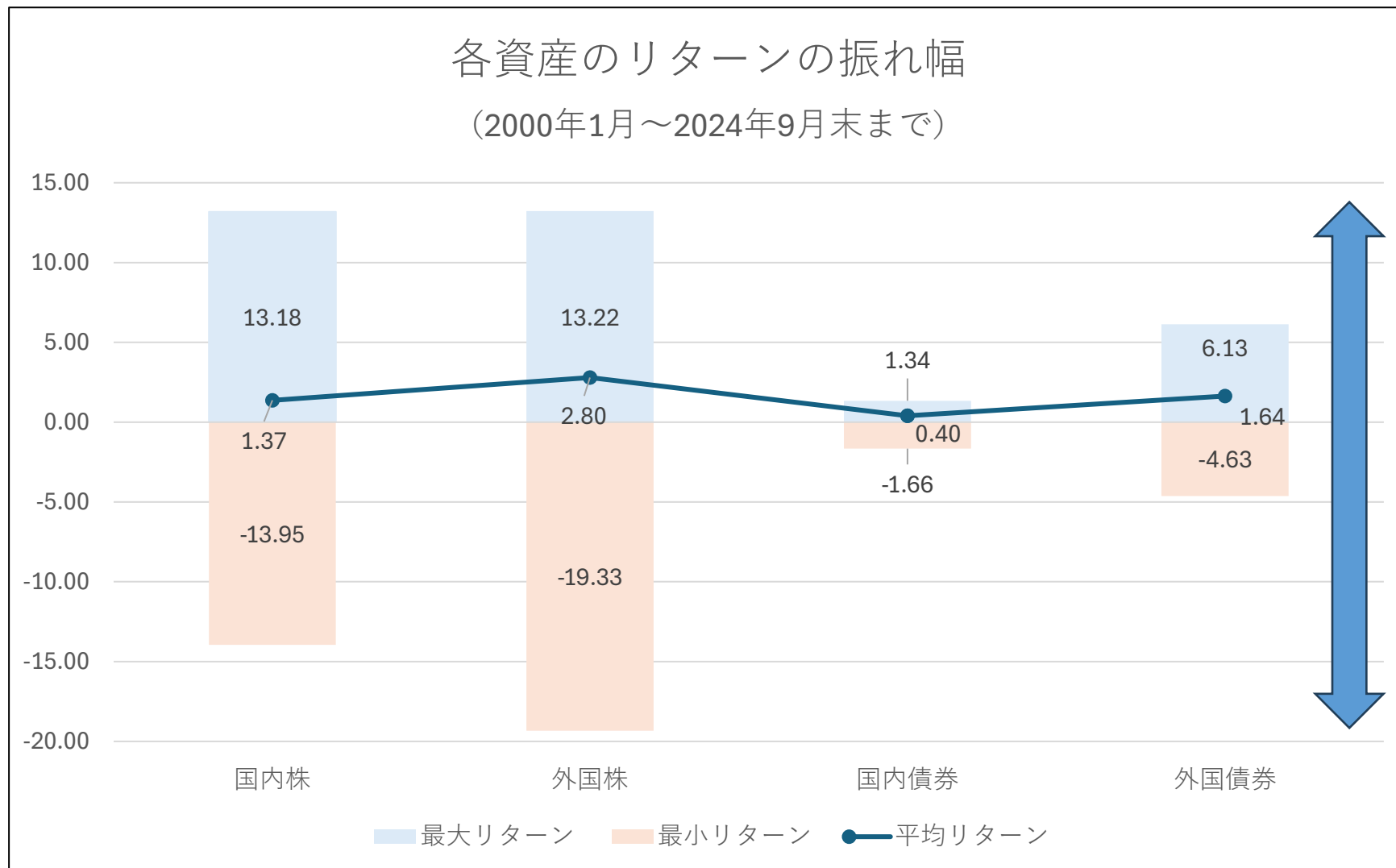
(参考) 上記の計算により求めたリスクは平均値からの広がりを意味するが、統計学では「標準偏差」という。リターンが正規分布に従う場合、平均値から「 ± 1 標準偏差」の範囲に全体のサンプルの約68%が収斂する（上記の例1であれば、リターンが23.7%から-13.7%の間に収まる確率が約68%となる）。

The page features several decorative blue circular icons with abstract shapes, including squares and curved lines, scattered around the central text. One icon is partially visible on the left edge, another is partially visible on the bottom left, and two are clustered together on the bottom right.

2

分散投資による リスク低減効果

各資産の“リスクの大きさ”は、“リターンの振れ幅”で確認できる。



※ 最大リターン・最小リターン・平均リターンは、各金融商品について対象期間の月間騰落率を年ベースに換算して算出したもの。

実際に各資産の値動きについて、シミュレーションで確認しよう！

体験 01 参加数設定 02 運用期間設定 03 資産運用組み合わせ 04 リターンの推移 05 成績発表 06 第2タームへ

資産運用の組み合わせを決めよう！

2014年～2018年

第1ターム

もう一度タイムマシンヒントを見る

数字を入れて、全部で100%になるように運用資産を組み合わせよう！

預金	国内債券	外国債券	国内株式	外国株式	残り
0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	100 %

考えるヒントになる!? マンガ劇場④を見る >

しょうこちゃんマークをクリックすると、その参加者またはグループの運用資産を入力することができます。

2004年～2013年の10年間に毎月1万円を積立投資した場合のシミュレーションを行います。

〈資産形成タイムトラベルのシミュレーション手順〉

- ・ 資産形成タイムトラベルの参加数は6を選択してください。
 - ・ 開始年は2004、運用期間は10年を選択してください。
 - ・ Aは各自好きな資産配分を設定し、B～Fは比較用として預金、国内債券、外国債券、国内株式、外国株式をそれぞれ100%に設定してください。
 - ・ Aの資産は国内債券、外国債券、国内株式、外国株式の中から選んでください。（預金は使用不可）
- ※システム上は第2ターム開始時点（2009年）に資産配分の見直しが可能ですが、変更せずに進めてください。

→シミュレーション完了後、AとB～Fの結果を比較し、グラフの推移について気づいた点をまとめてください。

○第1・2ターム（ 2004年 ～ 2013年 ） ※Aの資産配分についてご入力ください。

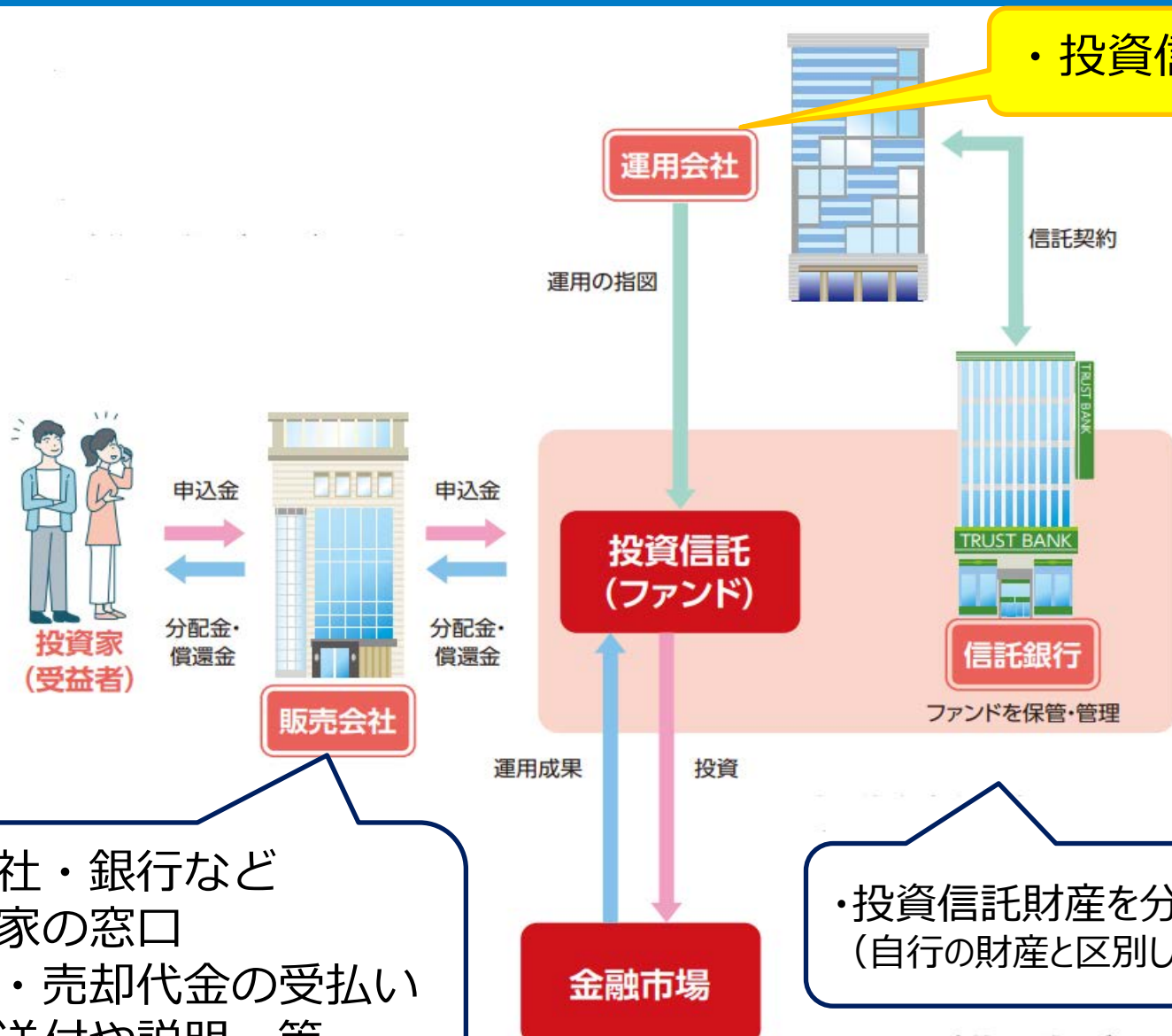
	①配分	理由	②投資金額	③運用成績
国内債券	%		1200,000 円	円
外国債券	%			
国内株式	%			
外国株式	%			
合計	100%			
合計	100%			

気づいた点



3 投資信託の仕組み

・投資信託の運用



証券会社・銀行など
 ・投資家の窓口
 ・購入・売却代金の受払い
 ・資料送付や説明 等

・投資信託財産を分別管理
 (自行の財産と区別して管理)

(出所) 投資信託協会「投資信託ガイド」をもとにJ-FLECが作成 (加工)

運用チームの例

【アクティブ運用】

ベンチマーク（あらかじめ決められた指数）を上回る運用成果を目指す。

運用担当者

アセット・アロケーション、
セクター・アロケーション、
銘柄選定等の運用に
関する判断

【インデックス運用】

対象とする「指数」に連動する運用成果を目指す。
（指数構成銘柄に投資）

経済動向分析担当者

内外経済、市場環境の
分析から資産配分、業
種配分をサポート

企業調査分析担当者

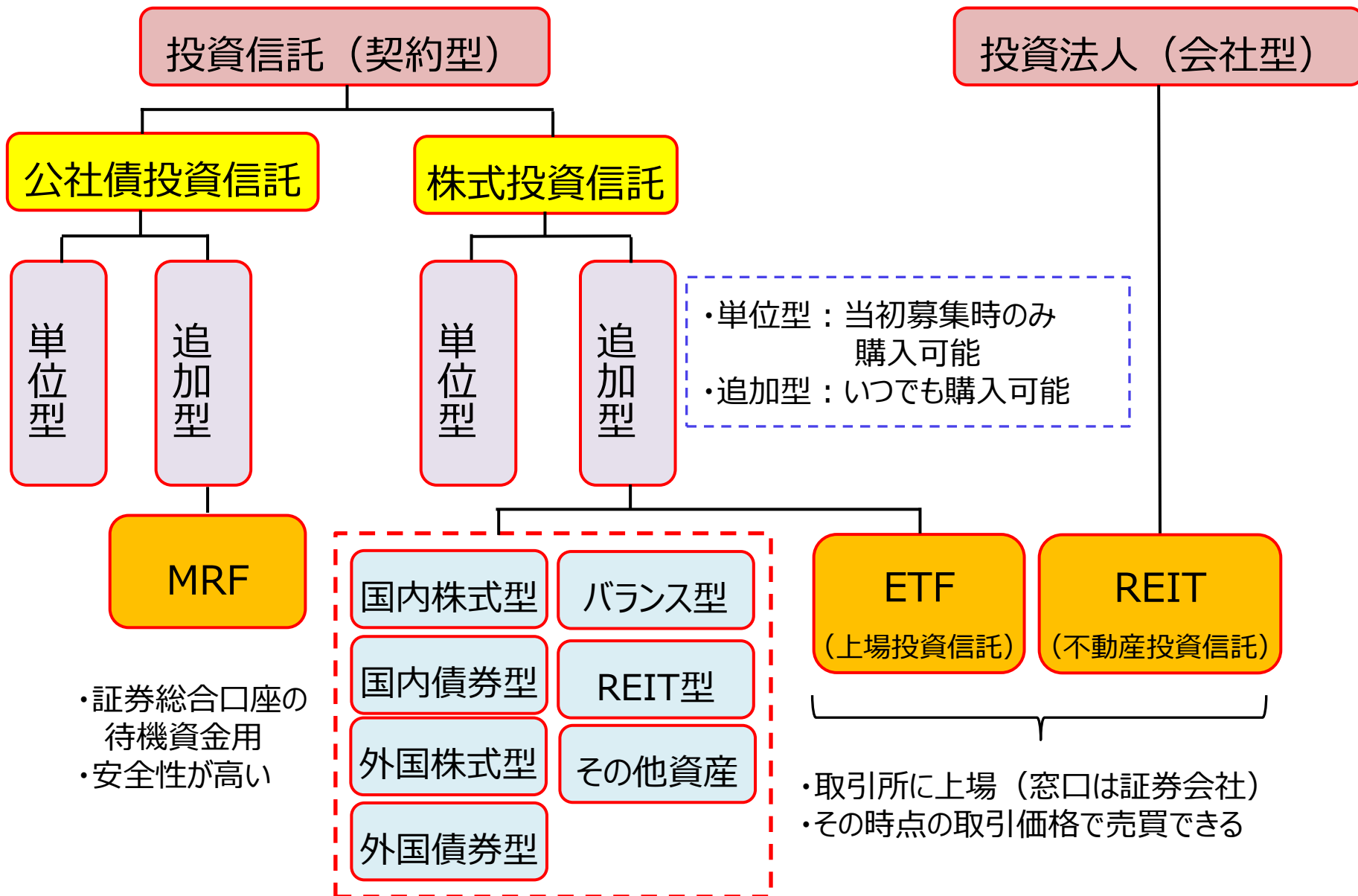
銘柄選定の判断を
サポート

定量分析担当者

定量分析面で運用を
サポート



4 投資信託の種類



ETF (Exchange Traded Fund) 【上場投資信託】

- 株価指数連動型・債券指数連動型・商品指数連動型・アクティブ運用型など、投資対象はさまざま。
- そのときどきの取引価格で売買できる。
(非上場の契約型投資信託の場合、購入・換金は1日1つの基準価額)
- 非上場の投資信託と違い、運用管理費用のうち、販売会社に支払う部分がない。

REIT (Real Estate Investment Trust) 【不動産投資信託】



(出所) 投資信託協会「投資信託ガイド」P15「REITとは」

<取引方法>

- 取引所に上場しており、購入窓口は証券会社（銀行では買えない）。
- 購入価格はその時点の取引価格。
指値注文（価格を指定する注文）ができる。
成行注文（価格を指定せず、すぐに売買を実施）ができる。
- 売買委託手数料は、証券会社が決めた料率が、購入時・売却時にかかる。

5

投資信託を 購入する際の留意点

取引の相手方（業者）の確認

金融商品取引業は、内閣総理大臣の登録を受けた者でなければならない。
[金融庁のHP](#)から、一覧を確認することができるので、不審な業者ではないかチェックする習慣を身に付けたい。

契約締結前交付書面の確認

投資家には、業者から取引の概要や手数料、想定されるリスクなどを記載した、[「契約締結前交付書面」](#)が交付される。商品を購入する前に内容をしっかり確認しよう。

本人確認

口座を開設する際には、[マイナンバー確認書類](#)と[本人確認書類](#)が必要。
(マイナンバーカード、運転免許証・住民票の写し・各種健康保険証 等)

その他

金融商品は多くの種類がある。商品の特徴を見極め、[よく理解できない場合は、安易に購入しない](#)ようにしよう。
また、[目論見書](#)や[運用報告書](#)を定期的にチェックしよう。

情報の活用

金融商品を利用する際には、情報を適切に活用しよう。

- ◆消費者庁：<http://www.caa.go.jp/>
- ◆金融庁：<http://www.fsa.go.jp/>

目論見書： 株式や債券、投資信託等に投資する際、販売業者等から渡される書類のひとつで、投資判断に必要な情報が記載されている。

(注) 新たに募集又は売出される有価証券に投資する場合に交付されるものであり、既に市場で取引されている有価証券に投資する場合には交付されない。

交付目論見書

投資判断にとって極めて重要な情報だけが記載
投資家に必ず渡される（投資信託説明書と呼ばれることもある）

請求目論見書

詳細な内容が記載
投資家の請求があれば渡される

「ファンドの目的・特色」を確認

「投資リスク」を確認

過去の「運用実績」を確認

「手続・手数料」を確認

運用報告書：投資信託を保有している投資家に対し、運用会社が運用状況を報告するための書類。保有を続けるかどうかの判断に必要な情報が記載されている。

交付運用報告書

投資判断にとって極めて重要な情報だけが記載
投資家に必ず渡される

運用報告書

詳細な内容が記載
投資家から請求があれば渡される

「運用実績・運用経過」を確認

「今後の運用方針」を確認

「組入有価証券の明細」を確認

「費用の明細」を確認

購入時
手数料

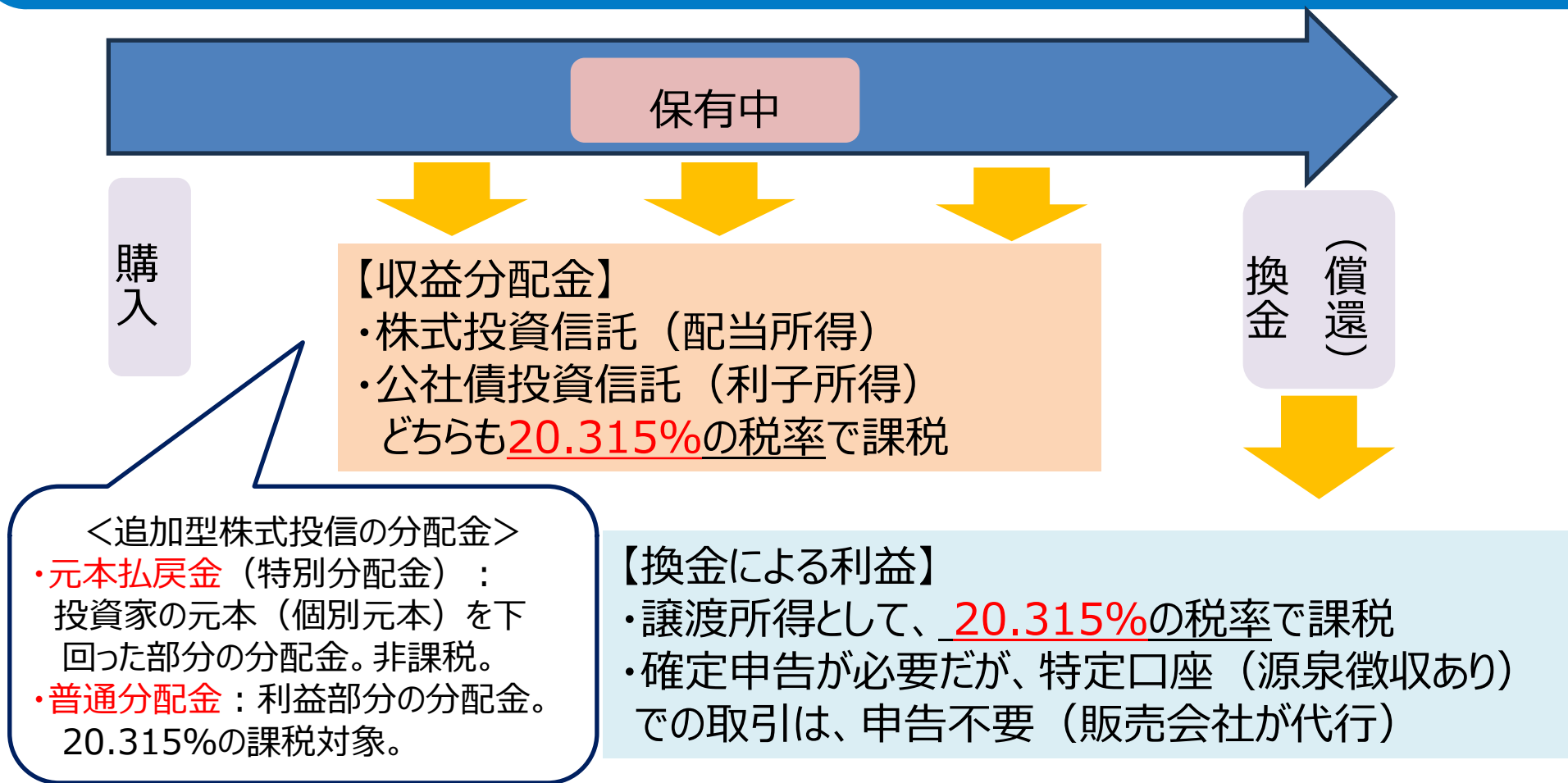
- 投資信託の購入時に支払う費用。販売する金融機関が受け取る。
- 購入額に対し0%～3.5%程度（販売会社によって異なる）。

信託報酬
(運用管理
費用)

- 投資信託を保有している間に支払う費用。ファンド内で徴収され、販売会社、運用会社、信託銀行が受け取る。
- 年率0.2～3.0%程度（商品によって異なる）。

信託財産
留保額

- 投資信託の換金時に支払う費用（かからない商品もある）。投資信託財産が受け取り、残った投資家の資産となる。
- 解約額に対して0.2～0.3%程度（商品によって異なる）。



NISA口座や確定拠出年金制度では、
利益に対する税金は非課税

投資信託の運用によって生じた損益は、それぞれの投資額に応じてすべて**投資家に帰属**する。つまり、投資信託は**元本が保証されている金融商品ではありません**。

価格変動リスク

- 投資信託が組み入れた株式や債券の価格が変動する可能性のこと。
- 株価は、最終的には市場における需給によって決まるが、一般に、企業の業績、国内及び海外の政治・経済情勢等の影響を受ける。

為替変動リスク

- 為替レートが変動する可能性のこと。外貨建て資産に投資する投資信託の場合、一般的には円高になれば基準価額にマイナス、円安ならプラスの影響がある。外国株式・債券で運用する投資信託には基本的にこのリスクがある。

信用（デフォルト）リスク

- 債券等を発行する国や企業が、財政難・経営不振などの理由により、利息や償還金をあらかじめ定めた条件で支払うことができなくなる可能性のこと。

金利変動リスク

- 金利が変動する可能性のこと。
- 一般に、金利が上がると債券価格は下落し、金利が下がると債券の価格は上昇する。また、満期までの期間が長い債券ほど、金利変動の影響を受けやすい。



トップページ



ファンドを探す



ランキング



つみたてNISA



お気に入り



投資対象(地域/資産)で探す

投資対象地域と投資対象資産を指定してファンドを探すことができます。

投資対象地域 ?



投資対象資産 ?

株式

債券

不動産投信

その他資産

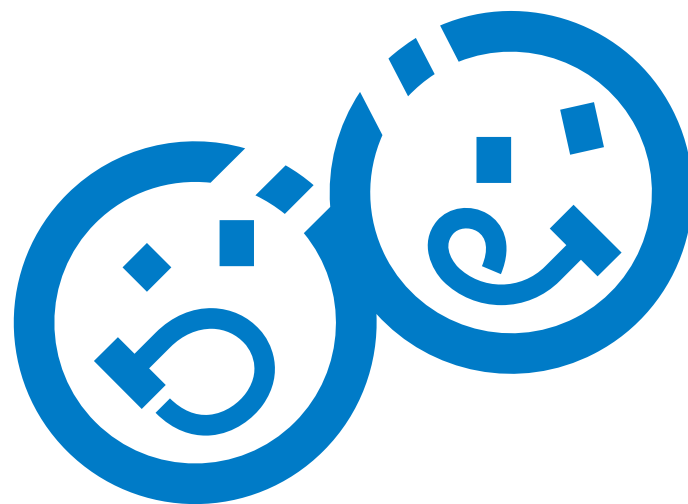
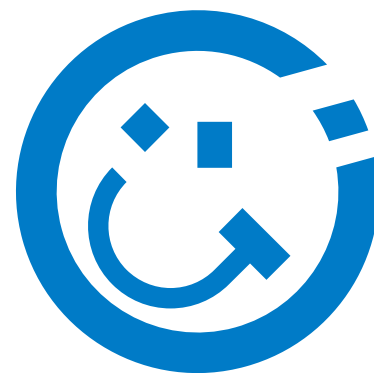
資産複合

検索

条件クリア



6 まとめ



- ① 投資は、預貯金と同様、個人の資産形成にとって重要な手段である。同時に、投資を通じた資金の供給によって、経済の成長に貢献する役割も期待できる。
- ② ただし、投資にはリターンがプラス・マイナス両方向に「振れる」リスクがある。
- ③ リスクを小さくして出来るだけ安定した投資を行うには、「分散投資」が有効（ただし、リスクを必ず小さくできるわけではない）。
- ④ 投資信託は、「少額から投資」ができるという意味において、個人にとって投資しやすい商品。「積立投資」を行う上でも有用。
- ⑤ 投資信託では、運用の成果は、損失を含めて投資者に分配される。一定の分散（資産の種類、国内・国外など）投資効果が効いているものの、どのような投資信託に投資するかによって、リスクとリターンは変わる。また、信託報酬等のコストがかかることにも注意。
- ⑥ 生活設計に応じて、資金の用途、リスクとリターン、コストを考えた上で、預金＋投資による長期の資産形成を行うことが大切。